

# 筑波大学理療科教員養成施設紀要

第9巻 第1号

教育 研究 臨床

2024年3月

筑波大学理療科教員養成施設  
Acupuncture and Physical Therapy  
Teacher Training School

## 筑波大学理療科教員養成施設紀要

2024年3月31日発行 第9巻・第1号

## 目 次

## 【巻頭言】

少子高齢化の顕在化の年に

和田恒彦 …………… 1

## 【報 告】

鍼通電時における異なるパルス幅が通電感覚に及ぼす影響

—Visual Analogue Scaleを用いた検討—

大和田里奈、瀧澤哲、辻原育恵、徳竹忠司 …………… 5

触察による体表から肋骨までの距離予測に対する超音波診断装置を用いた

フィードバック効果の検討

川崎公大、小野崎結香、早川佳吾、福丸祥多、沖中美世乃、和田恒彦 …………… 11

特別支援学校理療科生徒の鍼灸手技療法研修科における臨床研修希望に関する意識調査

工藤滋、岡愛子、小又淳、前田智洋 …………… 19

視覚特別支援学校理療科生徒の指導のための坐骨神経パルスの刺入点および

その決定手順に関する文献調査

沖中美世乃、和田恒彦 …………… 29

## 【資 料】

視覚障害教育に関する研究の動向

—科研費データベースの分析を通じて—

宇野真優子、渡邊楓、丸山保樹、工藤滋 …………… 37

令和5年度視覚障害教育の現状と課題

—令和元年度との比較—

和田恒彦、山岸直人 …………… 47

筑波大学理療科教員養成施設の卒業後進路

—就職および大学院進学状況—

和田恒彦 …………… 51

## 【症例報告】

膝関節前内側面痛に対して内側広筋パルスが奏功した一症例

—膝折れ現象時に起こった内側広筋性疼痛—

松葉勝利、徳竹忠司 …………… 57

鍼通電療法が有効であった慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群の1症例

山下藍、濱田淳 …………… 63

## 【筑波大学理療科教員養成施設 卒業研究論文・修了論文アーカイブ】

昭和60年度 臨床専攻生修了論文

本態性高血圧症に対する鍼治療

徳竹忠司 …………… 71

## 【活動報告】

筑波大学理療科教員養成施設活動報告（令和5年度）

和田恒彦 …………… 77

理療科教員養成施設入学者状況等

工藤滋 …………… 85

## 編集規定・執筆規定

紀要編集委員会 …………… 87

## 編集後記

工藤滋 …………… 91

# 筑波大学理療科教員養成施設紀要 編集規定

(2024年1月)

1. 筑波大学理療科教員養成施設（以下「理療科」）は教育・研究・臨床に係わる雑誌を発行する。  
雑誌の名称は「筑波大学理療科教員養成施設紀要」（以下「紀要」）とする。
2. 本誌は理療の教育・研究・臨床に関する価値ある論文で、国内外の他雑誌に掲載されていない、あるいは現在投稿中でない論文を掲載する。
3. 本誌は原則として、年1回発行する。
4. 紀要掲載文の区分は以下の通りとする。
  - 1) 原著論文（査読有り）  
独創性、新規性を認める研究論文
  - 2) 総説  
情報提供を主な目的に、先行研究を総括し、問題の解明に向けた検討を行った論文
  - 3) 報告  
情報提供を主な目的とした、実験研究論文、症例報告
  - 4) 資料  
情報提供を主な目的とした、「報告」、「総説」に該当しない論文
  - 5) その他  
上記に当てはまらないもの
5. 投稿文章は別に定める執筆規定に従い執筆する。
6. 紀要の編集及び投稿論文の審査をするために紀要編集委員会をおく。  
なお、論文の内容により外部に査読を依頼することがある。  
論文の採否・区分は、原則として本会が決定する。
7. 投稿文章の筆頭者は、理療科に関わりがあると本会が認めた者とする。
8. 著作権は本会に帰属する。
9. 原稿は原則として返却しない。
10. 本紀要は医学中央雑誌、及びつくばリポジトリに掲載される。

# 筑波大学理療科教員養成施設紀要 執筆規定

(2024年1月)

## 1. 原稿の構成

- ・原稿は和文または英文とする。
  - ・原稿の区分に限らず本文は10,000字以内（英文原著では4,500語以内）、和文抄録は500字以内、英文抄録は300語以内、キーワードは5個以内、引用文献は30編以内、写真・図・表は計10個以内とする。
- 1) 原著論文、総説、報告、資料
    - (1) 表紙（論文タイトル、著者名、所属機関名）、要旨、キーワード（3～5）、本文、倫理委員会による承認に関する記載、引用文献、図・表の説明、図・表の順で作成し、項目が変わるごとにページを換えて記載すること。
    - (2) 所属機関名が複数になる場合は著者名の肩に1) 2) 3) …上付きで記し、全著者名の下に所属機関と著者名が対応するように所属機関の前に番号を付けること。
    - (3) 図・表は白黒で作成し番号を付けること。
  - 2) その他
    - (1) 表紙（タイトル、著者名、所属機関名）、本文、引用文献、図・表の説明、図・表の順で作成し、項目が変わるごとにページを換えて記載すること。
    - (2) 所属機関名が複数になる場合は著者名の肩に1) 2) 3) …上付きで記し、全著者名の下に所属機関と著者名が対応するように所属機関の前に番号を付けること。
    - (3) 図・表は白黒で作成し番号を付けること。

## 2. 用紙・書式

- 1) 用紙はA4サイズで横書きとすること。原稿はワープロまたはパソコンを用い、12ポイント/ゴシック体で、本文は40文字×40行で作成すること。
- 2) 項目の階層は以下の通りとする。  
I, II, III …, 1, 2, 3 …, 1), 2), 3) …, (1), (2), (3) …, ①, ②, ③ …,  
a, b, c …, (a), (b), (c) …

## 3. 用語・単位

- 1) 和文は口語体の常体、当用漢字、新かなづかい、ひらがなまじりを用い、句読点・かっこは1字と扱う。外国語、外国人名、地名、機器名は原語のまま用いる。ただし一般に日本語化している外国語はカタカナを用いてもよい。
- 2) 度量衡の単位は、mm, cm, ml, dl, l, ng,  $\mu$ g, mg, g, kgと記す。
- 3) 年号は西暦とする。
- 4) 数字はアラビア数字を用いる。
- 5) 数字・英字は全て半角とする。
- 6) 読点は「、」、句点は「。」を用いる。

#### 4. 利益相反 (Conflict of Interest : COI)

利益相反に関係する事項は、その有無を本文の最後に開示すること。利益相反がある場合は、その内容（物品・資金の提供など）を記載すること。

例

- ・ 該当しない場合

「利益相反に関する開示事項はない。」

- ・ 該当する場合

「利益相反に関する事項を開示する。（企業名）から物品名・金額」

#### 5. 文献

文献は引用文献に限定し、表記はバンクーバースタイルとする。

##### 1) 雑誌中の論文の場合

引用番号) (本文中の引用順とする) 著者名 (著者が3名を超える場合は、4番目以降を省略し「ほか」、「et al」とする。人名の間は「,」で区切る)。論文タイトル (副題も含め全て記載する)。掲載誌名 (正式名称あるいは正式略名)。発行年 (西暦); 巻 (号): 起始頁 - 最終頁 (最終ページは起始頁と同一桁に同一数字がある場合は省略する)。

例

(1) 筑波一郎, 文京太郎, 東京二郎, ほか. 身体調整の運動と意義—鍼灸・マッサージと運動の科学—. 体育の科学. 2011; 61(10): 752-8.

(2) Naruto Yoshida, Naoyuki Kobayashi, Akihiko Masunari, et al. Changes in the muscle reaction time of ankle periarticular muscles by balance training. J Phys Fitness Sports Med. 2013; 2(4): 493-500.

##### 2) 書籍の場合

引用番号) (本文中の引用順とする) 著者名 (著者が3名を超える場合は、4番目以降を省略し「ほか」、「et al」とする): 表題. 書名. 編者名 (編者が3名を超える場合は、4番目以降を省略し「ほか」、「et al」とする). 版数. 発行者 (社). 発行地. 発行年 (西暦): 起始頁-最終頁 (最終ページは起始頁と同一桁に同一数字がある場合は省略する)。

例

徳竹忠司, 佐々木皓平, 林健太郎. 医療と社会. 改訂第5版. 医道の日本社. 東京. 2022: 105-19.

##### 3) ウェブページの場合

作成者名. サイト名. URL (取得年月)

例

厚生労働省. 令和2年国民生活基礎調査の概況. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa13/> (2014年8月取得)

##### 4) 私信、未刊行物、投稿中の文献の場合

リストに入れず、本文中で説明するか、または脚注として示す。ただし、印刷中のものは文献欄に上記の引用方法で記載し、末尾に（印刷中、英文の場合はin press）と記載する。

## 6. 提出物の仕様

1) 投稿表（本紀要の巻末に付録 本施設HPよりダウンロード）

(1) 筑波大学理療科教員養成施設紀要に投稿します。

(2) 年月日・タイトル・筆頭執筆者名・筆頭執筆者連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス）

2) データ（形式）

「原稿の構成」に従い、文章はワードとpdf（doc/docx形式およびpdf形式）で、図表はパワーポイントとエクセル（ppt/pptx形式およびxls/xlsx形式）で作成し、e-mail添付ファイルにて送付する。

## 7. 原稿送付先

e-mail添付ファイルにて下記宛てに送付する。

筑波大学理療科教員養成施設紀要編集委員会

e-mail : yousei-kiyou@un.tsukuba.ac.jp

---

## 編集後記

本施設の教員養成課程に在籍する施設生は、入学当初から研究方法について学び、デザイン発表、中間発表等の研究発表を行い、卒業論文を作成しています。また、理療臨床部の卒後教育の課程に在籍する臨床専攻生や理療研修生は、臨床の場を通じて、病態把握に基づく鍼治療を実践しており、年度末に症例報告、症例検討として施設内で発表しています。これらの研究は、いずれも社会的意義を有するものであり、また研究に協力してくださった多くの方々の貴重な時間と、研究に取り組む者の多大なエネルギーを費やした結果でもあります。そこで近年は、研究成果を学術雑誌に論文として投稿することを推奨しています。それは、こうして多くの者が関わって得られた結果を無駄にすることなく、1人でも多くの方々に伝えて、新たな事実を解明するための次なる研究に活用していただく必要があるからです。今年度発行の第9巻にも、令和4年度の卒業研究が3本、令和5年度の症例報告が2本掲載されており、研究機関としての本施設からの情報発信となっております。

振り返ってみますと、これまでの卒業研究論文や修了論文には、貴重で興味深い研究が数多くありました。しかし、諸般の事情で学術雑誌に論文として掲載されなかったものは、誰の目にも触れることなく、今も眠ったままになっています。そこでこの度、こうした歴史的価値のある研究を記録として後世に伝えていくことを目的に、本誌に「筑波大学理療科教員養成施設卒業研究論文・修了論文アーカイブ」というコーナーを設けることにいたしました。懐かしい思い出とともに、改めて研究成果をご堪能いただければと存じます。

編集委員 工藤 滋

---

### 筑波大学理療科教員養成施設紀要 第9巻1号

2024年3月31日発行

編集 筑波大学理療科教員養成施設紀要編集委員会  
〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1  
TEL：03-3942-6890 FAX：03-3942-6440

発行 筑波大学理療科教員養成施設

印刷 株式会社洋文社

# 投 稿 表

筑波大学理療科教員養成施設紀要に投稿します。

令和 年 月 日 提出

原稿のタイトル： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

原稿の種類（該当する物の前に○をつけてください）： 原著・総説・報告・資料・その他

所 属： \_\_\_\_\_

筆頭執筆者 氏 名： \_\_\_\_\_

筆頭執筆者 連絡先：(住所) \_\_\_\_\_

(電話番号) \_\_\_\_\_

(E-mail) \_\_\_\_\_

紀要編集委員会記入欄	
受付年月日	令和 年 月 日
受付番号	

キ  
リ  
ト  
リ

キ リ ト リ

**投稿控え** （以下に上記と同内容を投稿者が記入）

原稿のタイトル： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

原稿の種類（該当する物の前に○をつけてください）： 原著・総説・報告・資料・その他

所 属： \_\_\_\_\_

筆頭執筆者 氏 名： \_\_\_\_\_ 殿

紀要編集委員会記入欄	
受付年月日	令和 年 月 日
受付番号	

## 目 次

### 【巻頭言】

少子高齢化の顕在化の年に	和田恒彦 ……………	1
--------------	------------	---

### 【報 告】

鍼通電時における異なるパルス幅が通電感覚に及ぼす影響 — Visual Analogue Scaleを用いた検討—	大和田里奈、瀧澤哲、辻原育恵、徳竹忠司 ……………	5
触察による体表から肋骨までの距離予測に対する超音波診断装置を用いた フィードバック効果の検討	川崎公大、小野崎結香、早川佳吾、福丸祥多、沖中美世乃、和田恒彦 ……………	11
特別支援学校理療科生徒の鍼灸手技療法研修科における臨床研修希望に関する意識調査	工藤滋、岡愛子、小又淳、前田智洋 ……………	19
視覚特別支援学校理療科生徒の指導のための坐骨神経パルスの刺入点および その決定手順に関する文献調査	沖中美世乃、和田恒彦 ……………	29

### 【資 料】

視覚障害教育に関する研究の動向 — 科研費データベースの分析を通じて—	宇野真優子、渡邊楓、丸山保樹、工藤滋 ……………	37
令和5年度視覚障害教育の現状と課題 — 令和元年度との比較—	和田恒彦、山岸直人 ……………	47
筑波大学理療科教員養成施設の卒業後進路 — 就職および大学院進学状況—	和田恒彦 ……………	51

### 【症例報告】

膝関節前内側面痛に対して内側広筋パルスが奏功した一症例 — 膝折れ現象時に起こった内側広筋性疼痛—	松葉勝利、徳竹忠司 ……………	57
鍼通電療法が有効であった慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群の1症例	山下藍、瀧田淳 ……………	63

### 【筑波大学理療科教員養成施設 卒業研究論文・修了論文アーカイブ】

昭和60年度 臨床専攻生修了論文 本態性高血圧症に対する鍼治療	徳竹忠司 ……………	71
------------------------------------	------------	----

### 【活動報告】

筑波大学理療科教員養成施設活動報告（令和5年度）	和田恒彦 ……………	77
理療科教員養成施設入学状況等	工藤滋 ……………	85

編集規定・執筆規定	紀要編集委員会 ……………	87
-----------	---------------	----

編集後記	工藤滋 ……………	91
------	-----------	----